

森林の未来を描く税

静岡市立清水第七中学校 3年 菅原 佳奈

私の住む県は、自然条件に恵まれ、森林が六割を占める緑豊かな県だ。私は自然環境が身近にあるこの県をとっても魅力的に感じている。森林は、四季の景観だけではなく、環境保全や防災、水の浄化など私たち生活の土台を守り、重要な役割を果たす。私は、この緑多き県の森林環境が維持され、未来へ繋がってほしいと強く願う。しかし、日本の林業の現状は衰退に向かって進んでいる。従事者の高齢化、所有者不明の森林増加による手入れ不足、森林資源の産業育成が停滞するなど直面している課題は山積みだ。このままでは森林の荒廃が進行してしまい、自然生態系が崩れ、当たり前前の生活に悪影響が及んでしまう。

そこで、今年度から新しい国税として森林環境税が導入された。この税は、森林の温室効果ガス排出削減の目標の達成や山林災害を防止するための森林整備を目的としている。年間一律千円を納税することで、未来に向けて林業再生の架け橋となる税だ。千円と聞くと大きな印象ではないが、国民全体では年額約六〇〇億円の大きな税収となる。この集められた税金は、森林面積や人口および林業従事者数から算出された森林環境譲与税として都道府県と市区町村へ配分される。森林環境譲与税は先行してすでに開始されており、私の県では二〇二三年度に一億八千万円、市には二億八千万円と、とても大きな金額が配布された。この税金の用途を調べてみると、県産木材が病院や学校、空港などに使用されていることが分かった。また、市内にある観光施設「日本平夢テラス」の施設内や展望回廊にも多くの県内産ヒノキやスギが使用されていて、伐採した木が有効的に活用できていることを実感した。他県にも県の木材の良さをアピールできる良い機会だと思った。このとおり税金が公共施設に活用されて、だれもが公平・平等に恩恵を受けることができる使い道で嬉しかった。私自身、これから森林が少ない県と協働し、問題を共有することで森林資源を活用した商品開発に期待ができるのではないかと考え、興味を惹かれた。

私たちは、報道で国民に直接関わる税金ばかりに注目をする。しかし、間接的に当たり前の生活を支える税金の用途には無関心だ。きっと未来に向かって税金の種類は増えるだろう。私は、未来を守る納税者になるために、税金の種類に関係なく税の知識を高め、目的を理解し、使い道まで確認をする。なぜなら税金に関心を持つ国民が増えれば、国全体で適正な税金を見極めることができるからだ。このように、国民の見極める力の正しさこそが未来の豊かな社会の実現へと繋がっていく。

山からは当然のように水が湧き出し、森林からは綺麗な空気が放出される。緑豊かな日本。私は願う、税金を通して森林を守り、次世代まで自然環境が保たれるようにと。